９　獣医師や人工授精師の対応

日々の管理作業のなかで、牛の「病気の治療」や「人工授精」は多くの場合、自分で行うのではなく獣医師や人工授精師に依頼して行い、管理者はその場に立ち会います。

この作業は、獣医師や人工授精師に農場を訪問してもらい行うわけですから、自分で作業の時間を決めることができず、訪問を待つ時間をもどかしく思うこともあるかもしれません。しかし、牧場の牛のことを最もよく知るのは飼養管理者です。その管理者が、獣医師や人工授精師の作業を補助したり、言葉を話せない牛に代わって「いつから、どう様子がおかしいのか」ということを説明することは、治療や人工授精の精度や効率を上げるために欠かせない、重要な作業になります。

（1）事前準備

効率よく的確な診療や人工授精が行えるよう、少なくとも次の２点について、獣医師や人工授精師が訪問するまでに準備をしておきましょう。

写真56　診療を待つ牛

ア　対象牛をつなぐ又は隔離する

ａ　スタンチョンやタイストール牛舎

放牧やパドックに牛を出している場合、対象牛は外に出さず、つないだままにします（写真56）。

ｂ　フリーストールやフリーバーン牛舎など群飼いの場合

もくしやロープで柱やパイプ等につなぐか、治療ペンなどの独房に入れておきます。

<u>※待ち時間が長くなることもあります。つなぐ又は隔離した牛への「エサ・水」の給与も忘れずに！</u>

イ　対象牛の情報を整理する

診療や人工授精の際に必要となる情報を事前にチェックしておきましょう。

授精師さんに聞いた「事前に準備しておいてほしい情報」
（根室管内Ａ農協人工授精師へのアンケートより）

- □ 発情兆候（マウンティング？ スタンディング？ 粘液？ ）
- □ 発情を発見した時間帯
- □ 前回の発情日
- □ 繁殖治療歴
- □ 分娩時のトラブルや疾病
- □ 繁殖台帳
- □ 使いたい精液

獣医さんに聞いた「事前に準備しておいてほしい情報」
（根室NOSAI獣医師への聞き取りより）

- □ 「いつから」調子が悪いのか
- □ 「どう」調子が悪いのか
- □ 分娩月日（経産牛の場合）
- □ 乳房炎はあるか
- □ 便の状態
- □ その他、牛の観察ポイントの基本情報
  食欲･体温･頸の垂れ･耳の垂れ･鼻水 など

例えば･･･
エサ食いが「急に悪くなったのか」
それとも「だらだらと悪い状態が続いていたのか」など

（2）立ち会い

診療や人工授精の立ち会いでは、獣医師や人工授精師の「作業補助」と対象牛についての「情報の提供」、対処内容の相談と決定などを行います。

ア　作業の補助

牛が暴れると、診療や人工授精の作業がうまく進まないことがあります。それだけでなく、人間や牛にケガの危険が高まります。普段おとなしい牛でも、治療や外部の人間を嫌って暴れるかもしれません。安全にスムーズに作業を進めるために、飼養管理者が獣医師や人工授精師の作業を補助します。

ａ　牛の保定（ほてい）※

必要となる保定の方法は、診療や人工授精の内容により異なります（頭を下げないようにする、体を左右に振らないようにする 等々）。状況に応じ、獣医師や人工授精師と連携して作業を進めましょう。

※保定･･･動物を治療する際に、動かないようにおさえておくこと（写真57）

写真57　牛の保定

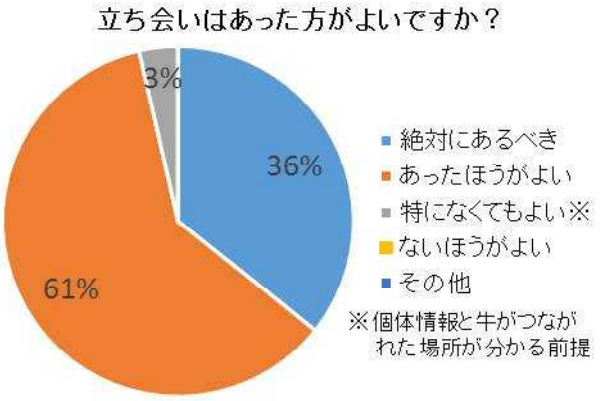
ｂ　その他、診療や人工授精の作業に必要なもの

その時々の診療や人工授精の作業に必要となるもの（例えば、お湯、ロープ･･･ 等々）があれば用意をしましょう。

イ　情報の提供

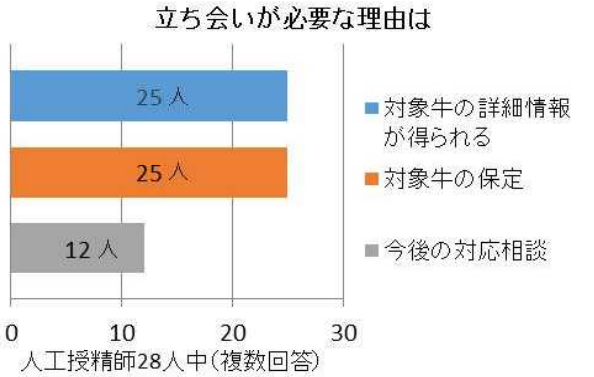
多くの獣医師や人工授精師は、飼養管理者に診療や人工授精の場に「立ち会ってほしい」と考えています（図８・９）。 現状（今の牛の状態）を見ることはできても、そこに至るまでの牛の体調の変化やその経過までは見ることができないからです。

飼養管理者は事前に準備した情報（３４ページ参照）を中心に、立ち会いの場で獣医師や人工授精師と情報のやりとりをしながら、より詳細な情報提供を行います。



（根室管内A農協 人工授精師へのアンケート調査より）

図８ 人工授精に立ち会いがあった方がよいか



（根室管内A農協 人工授精師へのアンケート調査より）

図９ 人工授精に立ち会いが必要な理由

獣医さんから一言「その場にいてくれるだけでいいんです」（根室 NOSAI　Y獣医師）
「何気ない会話から、診断の材料が見つかることもあるんです！」
【事例】搾乳牛で調子の悪い牛がいる、と呼ばれ･･･
●突然の食欲不振で元気がない状態だが、思い当たる節がない
●診療中の何気ない会話から･･･
農家「いやぁ～ようやく育成舎の工事が終わったよぉ」　獣医「工事？どこで？」
農家「すぐ横に牧道（放牧地に行く道）が通っているあの建物だよ」
獣医「ん！じゃあクギを飲んだ可能性もあるな！？」→ 外傷性第二胃炎でした

ウ　人工授精への立ち会いが減る傾向にある？

立ち会いの現状を調べたところ、診療への立ち会いはほとんどの農場で行われてるようですが（根室NOSAI獣医師への聞き取りから）、人工授精については16%の農場で立ち会いがないという結果でした（H26年12月 根室管内A農協のべ1,803戸を調査）。

飼養規模が大きくなるほど立ち会いが少なくなる結果からも分かるように（図10）、人工授精師は、規模拡大が進んできたなかで立ち会う農場が減っていると感じています。

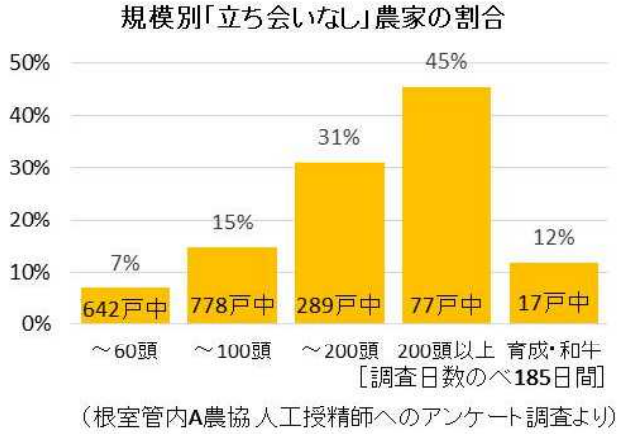


図10　経産牛頭数の飼養規模別「立ち会いなし」農家

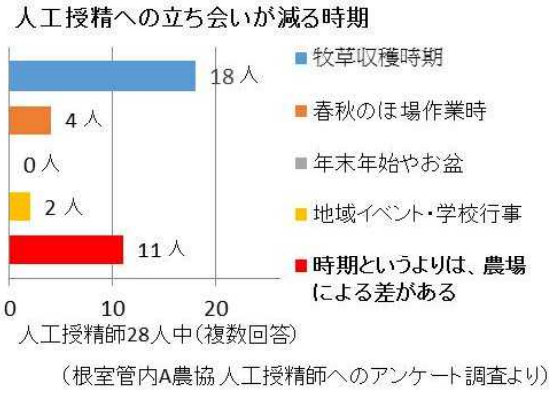


図11　人工授精への立ち会いが減る時期

また、やむなく立ち会いのないことが増える時期もあるようですが、調査した人工授精師の４割が「時期というよりは、農場により差がある」と感じていました（図11）。

「立ち会う農場は忙しい時期でも立ち会うし、立ち会いのない農場はいつの時期も立ち会わないことが多い」ということです。

エ　積極的な立ち会いを！

ａ　繁殖成績への影響

根室家畜人工授精師協会の調査では、人工授精に立会う農場は、立会わない農場と比べて「繁殖成績が良い」「繁殖管理意識が高い」という結果となりました（表6・7）。

表６　繁殖成績の違い［調査１］（乳検成績より）

	立ち会いあり（81戸）	立ち会いなし（60戸）
分娩間隔	415.0日	427.5日
初回授精開始	81.4日	90.6日
授精間隔	40.9日	46.0日

（根室管内乳検加入農家141戸を対象）
（H19～21年 根室人工授精師協会 改良部会 調査）

ｂ　飼養管理技術の向上

立ち会いでの獣医師や授精師とのやりとりは、一方的な情報提供ではなく牛やその飼養

管理についての「情報交換」になります。

「早期発見のために日々、牛のどこを観察しておくべきか」、「何が原因で病気になったのか」「良い発情の時の牛の状態」など、経験の浅い飼養管理者にとって牛のことを知るよい勉強の場であり、ベテラン飼養者であっても我が牧場の課題を把握できる貴重な場となります。

表７ 繁殖管理意識の違い[調査２]（アンケート調査）

	立ち会いあり（81戸）	立ち会いなし（60戸）
初回授精開始	早い	遅い
妊娠確認の実施	多い	少ない
発情観察時間	長い	短い

（調査１と同じ農家を対象）
（H22年 根室人工授精師協会 改良部会 調査）

繁殖管理は「立ち会い」と「記録」です！（別海町Ｂ牧場 奥さまの場合）

【事例】ご主人が組織役員となり、留守になることが多くなりました･･･

○ 結婚して10年、搾乳はしていても繁殖管理は全くのど素人、意を決して繁殖管理担当に！

◎ とにかく人工授精、繁殖治療には立ち会いまくりました･･･そして記録、観察、また記録
繁殖に関する情報は可能な限り記録し、授精師さんや獣医さんに伝えるようにしました。
立ち会いで得た情報も、もれなく記録をして、次の観察や飼養管理につなげます。

○ 立ち会うことで繁殖管理以外の情報もたくさん入ってくるようになり、飼養管理技術も向上、酪農の全体像が見えるようになりました。「自分で考えて牛群をマネジメントできる、こんな面白い仕事ないですよ！」

※ Ｂ牧場の成績　分娩間隔402日、初回授精開始 71日、個体乳量8,400kg、経産牛頭数70頭

（3）どうしても立ち会えない場合

やむを得ず立ち会えない場合でも、できるだけ獣医師や人工授精師に必要となる情報提供ができ、作業がしやすいよう事前準備を工夫しましょう。

授精師さんに聞きました【どうしても立ち会えない場合には･･･】（Ａ農協人工授精師 28 人）

- **牛をつないでおく、または連動スタンチョンやベッドに追い込んでおく（もくしも用意しておく）**
- **必要な情報（右写真例）を書いて「繁殖台帳」と共に置いておく**

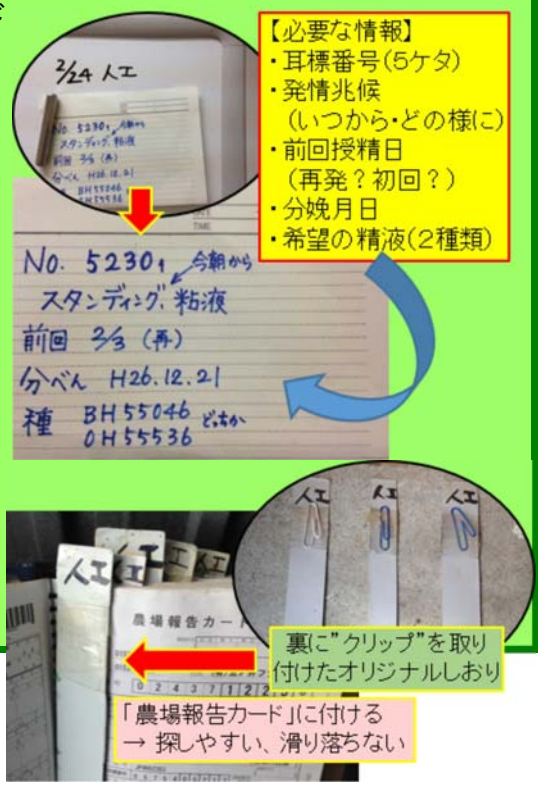
※ ホワイトボードでもよいが、できれば
「授精師が持ち歩ける大きさのメモ紙」がベスト

- **対象牛の繁殖台帳にクリップをしておく（右下事例）**

※ しおりを挟むだけでは滑り落ちる可能性あり

- **対象牛のつないである場所を明確にしておく**

例） 牛体にスプレー（尻に耳標Noなど）
牛の上の柱にピンクテープ
牛床にチョークで矢印（→）
牛舎見取り図につないである場所を記入
など



診療や人工授精の効率化はもちろん、自分の"飼養管理技術"をレベルアップさせるためにも、ぜひ積極的に診療や人工授精に立ち会いましょう！

10　モニタリングの重要性

“モニタリング”とは、日常的・継続的に観察し分析するという意味です。牛群のモニタリングにより日常的または定期的に牛群の状態を把握することで、それらを飼養管理に反映させることができます。モニタリング項目のなかには定量的で誰がいつ見ても同じ結果になるという客観性が必要になるものもあります。それがスコアリング（スコア化）です（91～95ページ参照）。

モニタリングは日常的または定期的に行うということに意味があります。日常的に乳牛を観察して普段の状態を知っておくと、乳牛の微妙な変化に気づきます。その微妙な変化が思わぬ発見につながることがあります。

モニタリングによって乳牛を見る視点を変えれば、自分が行った仕事の結果が見えてきます。日常の作業のなかにモニタリングを組み入れて下さい。きっと、牛舎へ行くのが楽しみになります。

モニタリングの項目

写真58　乳牛の行動

写真59　牛体・飼養環境

写真60　乳量・乳成分

写真61　ふん